

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

作成日：2024 年 3 月 5 日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」		
ゼミ名	マスコミ（新聞・出版）		
講師幹事名	永井 利治	大学教員	全学共通教育センター長 南 裕子
学 期	R6 (2024) 年 春夏 ・ 秋冬	開講時間	水曜 4 ～ 5 時限
<過去の受講生の声> ➤ 新聞業界の現状、新聞社と通信社の違いなど、理解しているつもりでもまだ知らなかったこともあり、より業界に詳しくなれたと思う。また、記者にとって大事なことは、記録を探ることと、人の記憶を呼び起こすことの繰り返しであるというお話が印象的であった。 ➤ SNS で誰でも発信できる時代、新聞社が発信する意義は「新聞」としての一定の信頼の上で客観的にファクトを伝え、社会の基盤とすることにあるのだと思います。もちろん、「社会に必要なニュース」とは何か、ニュースバリューを判断する事は難しいことかもしれませんが、新聞がそうして多くの情報の中から「社会として知るべき情報」を順位づけし、わかりやすく伝えてくれるからこそ我々の社会は成り立っていると感じます。 ➤ 新聞がどのような役割を社会において持っているのか、また情報を発信するとはどのような責任がついて回り難しく、またそれについて自身に知見を多くもたらす営みであるのかについて今後も考えてゆきたいと思えた。 ➤ 「何が真実なのかは結局わからない、マスメディアの流す情報が真実であるとも限らない」というお話は、マスメディアの役割について改めて考えるきっかけとなる、核心をついたお話で、特に印象的だった。 ➤ 少人数だったこともあり濃いお話をたくさん聞くことができとても充実した経験となりました。はじめは就職先としてあまり出版業界を考えていなかったのですが、先輩方のお話を聞いたり、会社を見学して雰囲気を知ったりしたことを経て、かなり関心を持ちました。 ➤ 社内では社員さんが皆私服だったり、髪色も自由に染めている様子を見て、将来自分が働く姿を想像するにあたって社内の雰囲気というのはとても大事だと実感しました。			